

< あなたの治療について >


呼内-Durvalumab-NSCLC-q2w

今回の治療は、Durvalumab という治療法で、イミフィンジ（IMF）という注射薬で治療を行います。腫瘍の増殖を抑えるお薬です。

治療全体の流れ

今回の化学療法は2週間が1コースとなっています。各コースの1日目に点滴を行います。この治療を2週間（14日間）ごとに12か月間繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2~14日目
	イミフィンジ (抗がん剤) 10mg/kg	点滴 約60分		お休み

点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなったりはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

特徴的な副作用について

イミフィンジにおける

間質性肺疾患

「発熱、から咳、呼吸困難」などの症状

甲状腺機能障害

「全身倦怠感、むくみ、発汗、体重減少」などの症状

尿細管間質性腎炎、糸球体腎炎

「発熱、皮疹、関節痛、食欲低下、吐き気、下痢、体重減少、倦怠感、尿がにごる」などの症状

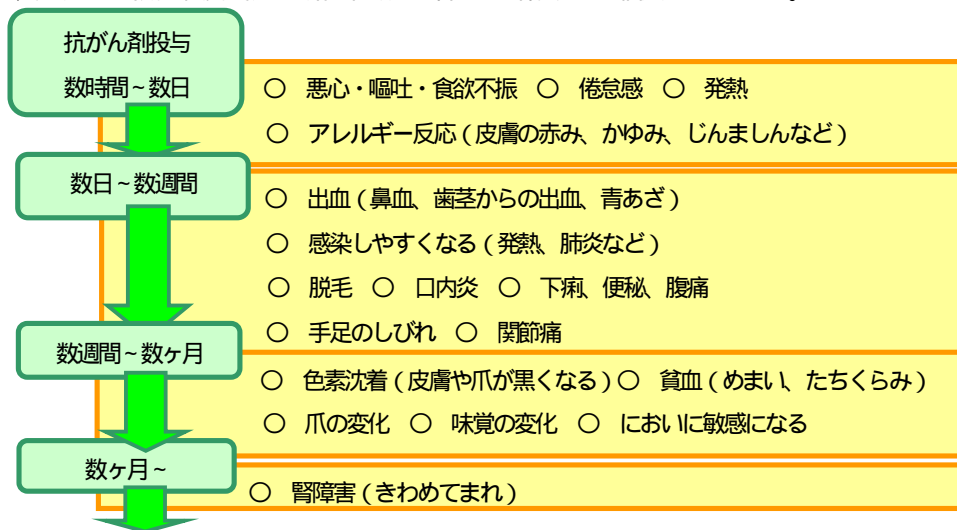
Infusion reaction

「発熱、悪寒、そう痒症、発疹、高血圧、低血圧、呼吸困難等」などの症状

* 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

副作用の発現時期の目安

*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。
これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。
また、発現する時期や程度も抗癌剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



副作用の対策について

吐き気・嘔吐，下痢と便秘，口内炎，感染症，出血，貧血，脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

**薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）
まれな副作用ですが、このような症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。**

【イミフィンジ】

- <間質性肺疾患（放射線性肺臓炎を含む）>発熱、から咳、息苦しい、息切れ
- <大腸炎>発熱、吐き気、嘔吐（おうと）、腹痛、下痢
- <重度の下痢>汗をかく、吐き気、激しい腹痛、水のような便、泥状の便
- <甲状腺機能低下症>からだがだるい、むくみ、寒がりになる、動作やしやべり方が遅い
- <甲状腺機能亢進症>汗をかきやすい、体重が減る、眼球突出、甲状腺のはれ、胸がドキドキする、手のふるえ、不眠
- <副腎機能障害>からだがだるい、意識がうすれる、考えがまとまらない、嘔吐、むかむかする、食欲不振、低血圧、判断力の低下
- <下垂体機能障害>疲れやすい、のどが渇く、水を多く飲む、尿の量が増える、からだがだるい、頭がぼーっとしたり意識がなくなったりする、考えがまとまらない、食欲不振、判断力の低下、血圧低下、月経がない、産後の乳汁量が少なくなる、性欲減退、体温が下がる、皮膚の乾燥
- <1型糖尿病>からだがだるい、体重が減る、のどが渇き、水を多く飲む、尿の量が増える、意識の低下、考えがまとまらない、深く大きい呼吸、手足のふるえ、判断力の低下
- <肝機能障害、肝炎>からだがだるい、白目が黄色くなる、吐き気、嘔吐、食欲不振、かゆみ、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる
- <腎障害>関節の痛み、発熱、頭痛、膨れあがる感じ、血尿、顔のむくみ
- <筋炎>からだに力が入らない、発熱、飲み込みにくい、息苦しい、発疹、筋肉の痛み
- <横紋筋融解症>脱力感、手のしびれ、手足のこばり、足のしびれ、筋肉の痛み、赤褐色尿
- <インフュージョンリアクション>呼吸困難、意識障害、まぶた・唇・舌のはれ、発熱、さむけ、嘔吐、咳、めまい、動悸（どうき）

上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。

